

## 「日本の伝統文化」に触れよう！

『耕人塾』指導指針の一つに「日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる」があります。今回は「日本の伝統文化」について、なぜ『耕人塾』の指導指針の一つにしたのかを述べたいと思います。

「日本の伝統文化」とは、日本に古来伝えられている生活習慣や考え方、芸能・技能や武道などのことを言います。具体的にはお正月やお盆、花見や十五夜、着物や和食などの生活様式、茶道・華道・俳句・短歌・落語・歌舞伎・能・狂言などの芸能、剣道・柔道・相撲・将棋などの技能があります。これらに共通することは、心の持ち方をととても大切にしているということです。自然を大切にするとか、相手を敬うとか、勝敗を超えた美しさとか、表に現れない部分も大切にするなどという考え方です。ともすると私たちは結果や表面に見えるものだけでもものの価値を判断してしまいがちですが、過程や目に見えない部分も大切だと思っています。塾生には、結果や勝敗だけではなく、そこに至る過程や目には見えない陰の部分も大切にしてほしいという願いから『耕人塾』の指導指針の中に「日本の伝統文化」を入れました。

『耕人塾』では、日本の伝統文化の一つである茶道の講話や体験を取り上げてきました。伝統文化の中で茶道を取り上げたのは、「わび茶」を発展させた千利休の「四規七則(しきしちそく)」という言葉に出会い、感動したことがあったからです。一つ一つの言葉が平易であるのに、日本で古来大切にされてきた伝統文化の心が凝縮されている「四規七則」を紹介します。

## 「四規七則」

「四規」：①和やかであること、②お互い敬い合うこと、③清らかであること、④動じない心を持つこと

「七則」：①心を込めてお茶を点てる、②本質を見極める、③季節感を大切にする、④命を尊ぶ、⑤心にゆとりを持つ、⑥柔らかい心を持つ、⑦互いに尊重し合う

『耕人塾』では、運営委員の表千家教授石田邦子先生から「茶道」についての講話やお茶をいただく作法をご指導いただきました。石田先生の講話で印象に残っている言葉があります。それは「お先に」という言葉です。「お先に頂戴します」の意味で、同席者への心配りだということをお教壇いただきました。また、「今日、ここで、今いる人たちで、お茶をいただくことは二度とない。だからこそ、今を大事にしなければならない」ということや「掛け軸にも茶碗にも季節や場にふさわしい最高のものをお出しする」というお話も心に残っています。

コロナ禍で3年ぶりの茶道の体験になりますが、今回石田先生からはどんなお話を聞くことができるかととても楽しみです。

## 世界に誇れる川開き祭りをするために

8/29(月)、『耕人塾』を代表して他のボランティア団体代表5人と一緒に「石巻川開き祭りにおけるごみ対応に関する要望書」を市長さんに提出してきました。『耕人塾』では実践活動の一つとして川開き祭りでのゴミ拾い活動を継続して10年になります。今年は新型コロナ感染拡大のため、祭り翌日の早朝ゴミ拾いだけでしたが、20袋以上のゴミが集まりました。このような状況を抜本的に改善したいという思いから要望書を提出することにしました。市長さんや関係部課長さんとの話し合いでは、川開き祭りを官民一体となって企画・運営し、誰もが楽しむことができ、ゴミのない世界に誇れる川開き祭りにしたいという未来に向けた話し合いがなされました。市長さんからは、「来年は川開き祭りが第100回という節目に当たり、市民総参加の魅力的でゴミのない爽やかな川開きにしましょう！」という力強い言葉をいただきました。